

第2回 霧島市地方創生有識者会議 要旨

開催日時	平成27年10月6日（火）16:30～		
開催場所	国分総合福祉センター 3階 大会議室		
出席者	有識者会議	松山委員、福園委員、山口（剛）委員、北川委員、瀬戸委員、楠原委員、中村委員、藤崎委員、鶴ヶ野委員、鮫島委員、福島委員、鈴吉委員、小山委員、猿渡委員、古賀委員、梶島委員、山口（ひとみ）委員、小川委員、井上委員、田口委員、内田委員、鳥丸委員、津之地委員、田原委員、福留委員、二見委員、上別府委員、児玉委員、大野委員、木野田委員、板元委員	
	事務局	塩川企画部長、掘切企画政策課長、藤崎企画政策課長補佐兼企画政策G長、横山企画政策G主任主事、松永企画政策G主任主事	
	その他	（株）鹿児島経済研究所 古賀、眞竹	
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	0人
<p><u>会次第</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 霧島市地方創生有識者会議の取組状況について 3 霧島市ふるさと創生人口ビジョン(案)について 4 霧島市ふるさと創生総合戦略(案)について 5 その他 6 閉会 			
<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 霧島市地方創生有識者会議の取組状況について 3 霧島市ふるさと創生人口ビジョン（案）について 4 霧島市ふるさと創生総合戦略（案）について <p>事務局より上記「2、3、4」に関して一括して説明。</p> <p><u>意見交換の要旨</u></p> <p>㊦旧1市6町における人口移動等の分析は行わなかったのか。 また、アンケートも含めた分析については、専門学校生も対象とすべきではないか。</p> <p>㊧旧1市6町の人口動向は、以前に参考資料としてお配りした「霧島市地域別人口推移」内において、分析・記載している。 また、今後の戦略推進においては、専門学校生の動向も意識したうえで施策を実施していきたい。</p> <p>㊨地区別のきめ細やかな施策を戦略において実施すべきではないか。</p> <p>㊩記載している「想定される取組」は、戦略としての大きな枠組みで記載している。 実際の個別事業では、地区別の状況を意識した、よりきめ細かい事業となる。</p> <p>㊪人口ビジョンで示された人口約13万人という目標は、かなり高い目標と思うが、ここに対する意見はないか。</p> <p>㊫大きな目標ではあるが、戦略に対する霧島市の強い意志を感じることが出来、良いと思う。</p>			

簡単ではないが、必達の意欲で戦略を推進していただきたい。

また、戦略推進する上での、個別事業では、霧島市ならではのオンリーワンの事業を期待している。

㊦ 厳しい目標ではあると思うが、これくらいの意気込みがあって良い。

㊦ 大きな目標ではあるが、人口目標の達成に向けて頑張ってもらいたい。

そのためにも、PDCA サイクルを回して、個別の KPI について達成していくことが必要である。戦略の検証体制はどのように考えているか？

㊦ 民間の有識者も含めた検証体制を組織する考えであり、戦略策定に関わった有識者のうち、一部の方にも、検証体制への参加を依頼する予定である。

㊦ 施策の優先順位は市でもバランスを取ると思うが、利便性のみを追求するのではなく、どんな町・どんな故郷を目指していくのかといった視点も必要である。

㊦ 価値観については、様々な考えがあり、利便性を重視する方もいれば、そうでない方もいる。戦略は、そのような多様な価値観をまとめたものとなっているが、個別事業においては、各対象を明確にしたものとなり、それぞれの価値観に沿った事業となる。

人口 13 万人という目標について、委員の方々から前向きな意見をいただいているが、市としても高い目標との認識ではある。しかし、その高い目標に向かって、強い意志で頑張っていきたい。

㊦ 戦略の推進においては、市民もふくめ、いかに当事者意識を持たせるかが重要である。

㊦ 戦略としては綺麗にまとまっているが、ワクワク感がない。各プレーヤーがこういった形で参画していけばいいか、イメージが湧くようにしていく必要がある。

そのためにも、どのように当事者意識を持たせるか、仕掛けづくりが必要である。

㊦ 当事者意識を持たせる仕掛けづくりは、今後の戦略推進における課題として検討していきたい。

㊦ 結婚・子育ての施策推進にあたっては、まず市民の希望をしっかりと把握する必要がある。また、

㊦ 戦略としてはよく出来ている。項目が多いので、推進にあたっては、今あったとおり、主体を明確にして取り組んでいく必要がある。

㊦ 多くの委員から意見がでたよう、戦略においては、推進体制が重要と考えている。事業の担い手を明確にし、民間活力など産学官金労言と連携しながら、進めていきたい。頂戴した意見については、施策の推進に際して参考にさせていただきたい。

5 その他

事務局より検証体制について説明。

本会議の委員の一部の方について、検証体制のメンバーとしての参加を依頼する予定。

6 閉会